

平成27年10月1日

各小学校長・PTA会長 様

地島校区漁村留学を育てる会
会長 前田 浩昌
宗像市立地島小学校
校長 有馬 宏

平成28年度(第14期)漁村留学生募集のご案内

日増しに秋の深まりを感じる季節になりました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来年度で14年目を迎える地島校区漁村留学制度ですが、その留学生募集については毎年、県下各小学校へご案内をさせていただいています。

つきましては、同封の募集案内を校内に掲示していただければ幸いです。また、募集案内をコピーしていただき、該当する学年の児童(現3年生・4年生・5年生)に配布いただければ助かります。どうぞご協力のほどよろしくお願いします。

なお“昨年度留学生保護者・児童・地域の感想”や“なぎさ通信”を資料として同封しておりますのでご参考にしてください。

記

- 1 受け入れ学年 平成28年度の4年生・5年生・6年生の男女児童(全員で6名程度)
- 2 受け入れ条件 ① 体験を通して自立性を養おうとする健康な児童であること
② 児童・保護者の双方が漁村留学の趣旨をよく理解し、熱意があること
- 3 留学期間 1ヶ年(平成28年4月1日～29年3月31日)
- 4 委託料 生活費として毎月4万円程度、他に各学期3万5千円程度(学校費等)
- 5 募集期間 平成27年10月1日～平成27年12月24日
- 6 説明会 平成28年1月9日(土) 予定 *会場 宗像市立地島小学校
- 7 過去の実績(受け入れ人数)
 - 第1期平成15年度 5名<男2 女3>(宗像市3 北九州市1 春日市1)
 - 第2期平成16年度 6名<男4 女2>(宗像市1 北九州市1 福岡市2 古賀市2)
 - 第3期平成17年度 6名<男3 女3>(宗像市2 北九州市1 福岡市2 春日市1)
 - 第4期平成18年度 6名<男4 女2>(宗像市2 北九州市1 福岡市2 大野城市1)
 - 第5期平成19年度 7名<男5 女2>(宗像市2 北九州市1 福岡市1 古賀市1 田川市1 黒木町1)
 - 第6期平成20年度 6名<男4 女2>(宗像市2 福岡市2 うきは市1 みやま市1)
 - 第7期平成21年度 6名<男4 女2>(宗像市2 北九州市1 須恵町1 志免町1 うきは市1)
 - 第8期平成22年度 5名<男2 女3>(宗像市2 福岡市1 朝倉市1 志免町1)
 - 第9期平成23年度 5名<男3 女2>(宗像市3 北九州市1 福岡市1)
 - 第10期平成24年度 5名<男4 女1>(宗像市2 直方市1 福岡市2)
 - 第11期平成25年度 5名<男2 女3>(宗像市2 福津市1 みやま市1 千葉県1)
 - 第12期平成26年度 5名<男2 女3>(宗像市2 福津市1 福岡市1 大野城市1)
 - 第13期平成27年度 5名<男3 女2>(宗像市1 福津市1 福岡市2 鞍手町1)

8 応募・問い合わせ先等

- 「地島校区漁村留学を育てる会」事務局(なぎさの家)

TEL・FAX 0940-62-3394

- *留守の場合・昼間 地島小学校(教頭まで)

TEL. 0940-62-1171 FAX. 0940-62-1911

- 連絡・受付後、資料を郵送、または、FAXいたします。

なぎと通信

2015年
10月

地島校区漁村留学制度

平成一五年度から始まった漁村留学制度は、今年で十三年目を迎えることとなりました。毎年、五、七名の留学生を受け入れ、漁村留学センター「なぎさの家」で指導員や寮母さんとともに生活を送ります。集団生活を通して、子どもたちの基本的生活習慣や規律、助け合う心、自立心などの社会育成を目指しています。今までに漁村留学を卒業した子どもは五十八名。その多くが今でも夏休みや行事の際に島へ遊びに来ており、交流が続いています。

漁村留学十三期生の半年

指導員 竹井 ゆかり

今年は、4年生4名、5年生1名の計5名（男子3名、女子2名）と指導員1名がなぎさの家で共同生活を送っています。早いもので、留学期間も残り半年となりました。半年の間に、地島の方との交流や、行事への参加などたくさんのご経験を体感させてもらいました。最初は不安でいっぱいだった子どもたちも、今では地島での生活を楽しみ、日々の生活の中で、少しずつ成長しているように感じます。共に協力し合いながら、いつも支えてくれている方々への感謝の気持ちを忘れずに、残りの半年間を有意義なものにして欲しいです。

楽しい留学生生活

イカ釣り体験

漁船に乗せてもらい、夜のイカ釣りへ出かけました。島の漁師さんに教わりながら、みんながイカ釣りを楽しみ、たくさん釣ったイカを釣ることができました。釣ったイカは、みんな仲良く分けて、お家に持って帰りました。



ホームステイ

年に数回ホームステイがあり、留学生だけでなく島の方のお家へ泊まらせてもらいます。

ホームステイ先では、お手伝いやお話をしながら、いろいろなことを教えてもらい、交流を深めます。また、島の方に留学生のことを知ってもらい、とても良い機会でもあります。



地島山笠

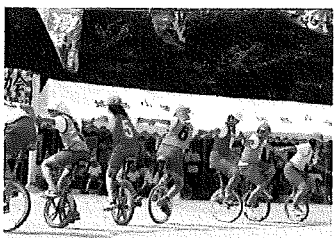
毎年七月十五日、地島では山笠が行われます。山笠の日は、島の大人から子どもまで、朝から大忙し。子どもたちは山車の綱を引き、「わっしょい！わっしょい！」という掛け声とともに、町内を一生けん命に駆け回り、島の方々も、「がんばれ！」と笑顔で応援してくれます。

島の方々と一緒にみんな汗水を流しながら、とても良い体験をさせてもらいました。



全島大運動会

九月二〇日、全島大運動会が行われました。地島小学校の運動会は、島全体で行われるため、多くの人が参加し、子どもから大人まで楽しむことができます。小学生は一輪車やソーラン節などこの日のためにたくさん練習をします。特に一輪車は、初めは乗れない子どももいましたが、一学期から練習を重ね、本番では上手に乗ることが出来ました。子どもたちの成長を感じることが出来る素晴らしい運動会でした。



私から見た漁村留学

第12期 地島校区漁村留学を育てる会

実行委員長 吉田 稔

4月から親元を離れ、共同生活をしている子ども達は、最初は学校生活や島の生活にとまどいながら、指導員の先生や地域の方々の協力の中で、日々成長し、いつも元気よく賑やかに毎日を過ごしています。また、地域の方々と年4～5回のホームステイや漁師の仕事の手伝いなどをし、一年間の共同生活の中でしっかりあいさつが出来るようになり、人への思いやりを持つ事が出来るようになってきていると思います。

子ども達は漁村留学で伸び伸びと生活し、自分の力を発揮できるように頑張っています。ぜひ地島へ漁村留学をしてみませんか？お待ちしております。



漁村留学を通して

第12期 漁村留学生保護者

私たち家族が漁村留学を知ったのは、小学校で配布された一枚の手紙でした。

「漁村留学に行ってみる？」と何気なしに聞いたのが始まりでした。後日、ふと思い立ち、息子二人と共に地島へ行きました。皆初めての地島。3人で、しばらく広くきれいな海を眺め、近場を散策。途中、島の方々とあいさつや言葉を交わす中で「ここに来たいです！」と、息子の突然の決意表明には驚かされました。その後、彼の決意は揺らぐことなく転入学となりました。

文章を書くのが苦手な息子は、他の留学生の子ども達のように中々手紙を書いてはくれませんでした。毎週の『なぎさ通信』が届くのが楽しみで、写真入りに先生のコメント付きで楽しそうな様子が伺え、子どもに会えなくても安心出来ました。また、離れてはいるけれども月1回の帰省日や行事の際に子どもに会えた時は心身共に遅しくなっていく息子の姿に驚かされました。親元を離れ目には見えない部分もありますが、逆に離れているからこそ親も子も見えてくるものがたくさんあったのではないかと思います。

留学中は漁村留学の会長さんのお誘いでクルージングや釣り、島散策などに連れて行っていただき、イカ釣り、魚のさばき方なども教えていただきました。行事もたくさんあり、ホームステイや学校行事の他、地域のお祭りである山笠やみあれ祭にも参加させてもらいました。保護者の私たちも今まで経験したことのない貴重な体験の連続でした。

留学生のために、会長さんをはじめ先生方や島の方々が一丸となり、温かく子どもたちを迎え入れ、大切に育てて頂き感謝しております。今期、この兄の背中を見て地島の漁村留学に憧れていた弟がお世話になっています。これからずっと、この素晴らしい漁村留学が続いていくことを切に願っています。

留学を終えて

第12期 漁村留学生 6年（当時）

僕は漁村留学でたくさんのことを学び、地島ならではの行事にもたくさん参加しました。ろ漕ぎ体験、山笠、運動会、魚さばき、みあれ祭、文化祭、椿まつりなど、大変なこともあったけれど本当に楽しかったです。

なぎさの家の生活では、今まで自分がどれだけ楽をして、周りの人に支えてもらっていたのかもわかりました。

色々な体験の中で、出来なかったことが少しずつ出来るようになり、自分に自信が持てるようになりました。家族と離れてさみしい思いをせずに過ごせたのは、いつも近くに友達がいて、先生がいて、地島の人たちが支えてくれたからだと思います。

たくさんの人のおかげで、楽しい留學生活を送れたことは、ずっと忘れません。地島で漁村留学が出来たことは、僕にとって、一番の自慢です。